



## 在院日数の指標

---

### <項目解説>

---

診断群分類（以下DPC）ごとの在院日数を視点として、病院として効率よく診療していることを評価します。

そもそも、医療機関によって患者の構成は異なるため、患者構成を加味しない平均在院日数の比較は意味がありません。DPC/PDPSの導入により、傷病名と治療行為ごとに患者が分類され、それぞれの全国平均在院日数も公表されています。この公表データによって、同じDPCでも自院の在院日数が全国平均よりも長いのか短いのか判断できます。

この指標は加重平均として自院の全体像を示すものです。数値は1.0が全国平均となり、1.0よりも大きい方が、在院日数が短く効率よく診療していることを示します。

### <当院の実績>

---

【平成24年度】	0.90
【平成25年度】	0.90
【平成26年度】	0.88
【平成27年度】	0.95
【平成28年度】	0.95

### <当院の自己点検評価>

---

当院は全国平均の1.0を下回っています。これは在院日数が全国と比較してやや長いことを意味します。在院日数が長いことは、十分な回復を待ってから退院していただいている反映でもあります。在院日数短縮により社会復帰を早めることが重要ですので、今後は全国平均の1.0を目指して、早期退院に向けた取り組みを病院全体で行っていきたいと考えています。

### <定義>

---

- ・厚生労働省DPC評価分科会の公開データ

### <算式>

---